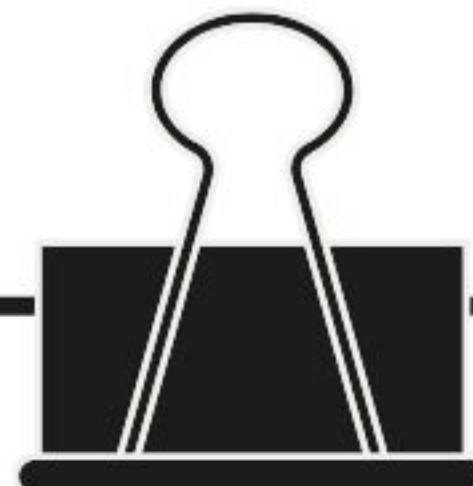




出雲芸術アカデミーは何が変わった？

今年度から新生出雲芸術アカデミーとして再出発いたしました。では、その変化した点を述べてみたいと思います。

なぜ、見直しが必要であったかというと、昨年度までは国の「文化芸術振興費補助金」の申請を行い、アカデミー事業や公演事業の事業費の一部を賄っていました。この補助金は文化庁が主張する「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」という音楽堂等の活性化事業が主な目的でした。長年にわたり補助金の申請を行ってきましたが、申請目的と私たちが目指したい公演等の目的意識とで齟齬(そご)が生じ、文化庁への補助金申請を断念いたしました。幸運にも出雲市からの負担金を増額していただくこととなり、今年度以降のアカデミー事業や公演事業が見通せる状況となりました。

このような経緯を経て、新しく生まれ変わるべく教育・研究・演奏の三機能が相互に連携し、本来の姿で体系的かつ実践的な音楽教育を目指すことといたしました。

本アカデミーは「音楽院」、「音楽研究院」、「出雲フィルハーモニー」のトライアングル組織の構造は基本的に変わりません。しかし、内容は大幅に見直しました。今回は「音楽院」の変化した点について触れてみたいと思います。

昨年度のコースは「舞台芸術創造コース」&「生涯楽修コース」の2コースでしたが、今年度からは「iPhil オーケストラコース」&「iPhil コーラスコース」&「音楽入門コース」&「伝統音楽コース」の4コースに変化しました。

次に履修単位の講座は、「音楽形成ステップアップ型講座」と「レパートリー型講座」を設けました。内容は下記の体系図を参照ください。



音楽形成ステップアップ型講座

- ♪ キッズ音楽入門講座「はじめの一步ⅠⅡⅢ」講座(音楽入門コース)
- ♪ ジュニア&ユースコーラス講座 (iPhil コーラスコース)
- ♪ ジュニア&ユースオーケストラ講座 (iPhil オーケストラコース)

レパートリー型講座

A. 実践レパートリー系

- ♪ オーケストラ・レパートリー講座(iPhil オーケストラコース)
- ♪ コーラス・レパートリー講座 (iPhil コーラスコース)
- ♪ 邦楽合奏レパートリー講座 (伝統音楽コース)

B. 統合レパートリー系

- ♪ 歌う音楽美学「オペラトリオ」講座 (iPhil コーラスコース)



さらに、音楽形成ステップアップ型講座(ジュニア&ユースオーケストラ講座)においては、教育の進行を三つの要素によって次のように体系化しました。



①何を専門とするか

楽器別教室 <専門実技の所属単位>

ヴァイオリン教室、フルート教室 等

※ サクソフォン教室、ユーフォニアム教室が新設されました。



②どの段階で学ぶか

合奏クラス <習熟度に応じた合奏教育単位>

ユニゾンクラス (初級合奏:導入段階)

コラールクラス (中級合奏: 基礎的アンサンブル)

シンフォニアクラス (上級合奏: フルオーケストラ)

※ 吹奏楽編成のファンタジアクラス (ウィンドオーケストラ)が新設されました。受講生が参加できるほか、吹奏楽部で活動している小中高生を対象に合奏塾生も募集しています。



③どの段階まで到達しているか

グレード <教育到達段階を示す指標>

初級～グレード1(モノディ)～グレード2(メヌエット)～グレード3(ガヴォット)

中級～グレード4(マーチ)～グレード5(ワルツ)～グレード6(ソナチネ)

上級～グレード7(ソナタ)～グレード8(ロンド)～グレード9(フーガ)

※グレードは所属ではなく、教育評価及び進行指標です。



この様に新しく導入された制度等をすべてではありませんが紹介しました。皆さんはどこに所属し、何を到達目標に学びますか…? 成長していく姿が今から楽しみです。

新入生歓迎会を実施しました！(ジュニア&ユース、キッズ)

今年度の新入生41名を迎え、出雲 Jr.フィルと音楽院指導陣による歓迎会を実施しました。初めに歓迎のあいさつの後、ジュニアオーケストラとコーラスが歓迎演奏を行いました。歓迎演奏を行った受講生たちも、数年前は先輩たちの演奏を聴いているわけですが、迎える側に立った皆さんの演奏を傍らから拝見していると、自信を持って演奏している姿にたくましさを感じました。その姿を見た新入生の皆さんは、きっと希望に満ち溢れ次は自分の番と心得る起点となったことでしょう…。

その後は、受講生全体で交流会が行われ、ますますアカデミーの絆が深まりました。並行して保護者総会が実施され、昨年度の活動報告や今年度の活動計画では、保護者会として事業の支援内容等が示され、ご理解とご協力の支援体制を整えていただきました。

特に今年度は、年度末の3月に岡山市ジュニアオーケストラとの交流演奏会で岡山市へ演奏旅行に出かけます。同じ音楽というツールで通じ合っている仲間同士が交流できる絶好の機会です。保護者の皆様には多大なご負担をお掛けいたしますが、趣旨をご理解のうえご賛同していただきますよう、よろしくお願いいたします。また、宿泊地に選びましたのは「閑谷学校」という歴史的な価値のある施設です。学ぶことも沢山あると思いますので、意義深い演奏旅行となることと思います。



つぶやきコーナー

このコーナーはアカデミー関係者が普段から考えていることや思いをつぶやいていただきます。

みなさん、こんにちは。ホルンの森山智子です。今回、桑原学長からオイコスについてお話をいただき、今月号に寄稿させていただくことになりました。文章は不慣れなため、ゆるーく、温かい目でご覧いただけますと幸いです。



ホルンとの出会い

私は、中学生の時に吹奏楽部でホルンと出会いました。同級生よりも遅れて入部したこともあり、顧問の先生から提示された楽器はオーボエとホルンの二択でした。

先生は選択肢を与えておきながら、

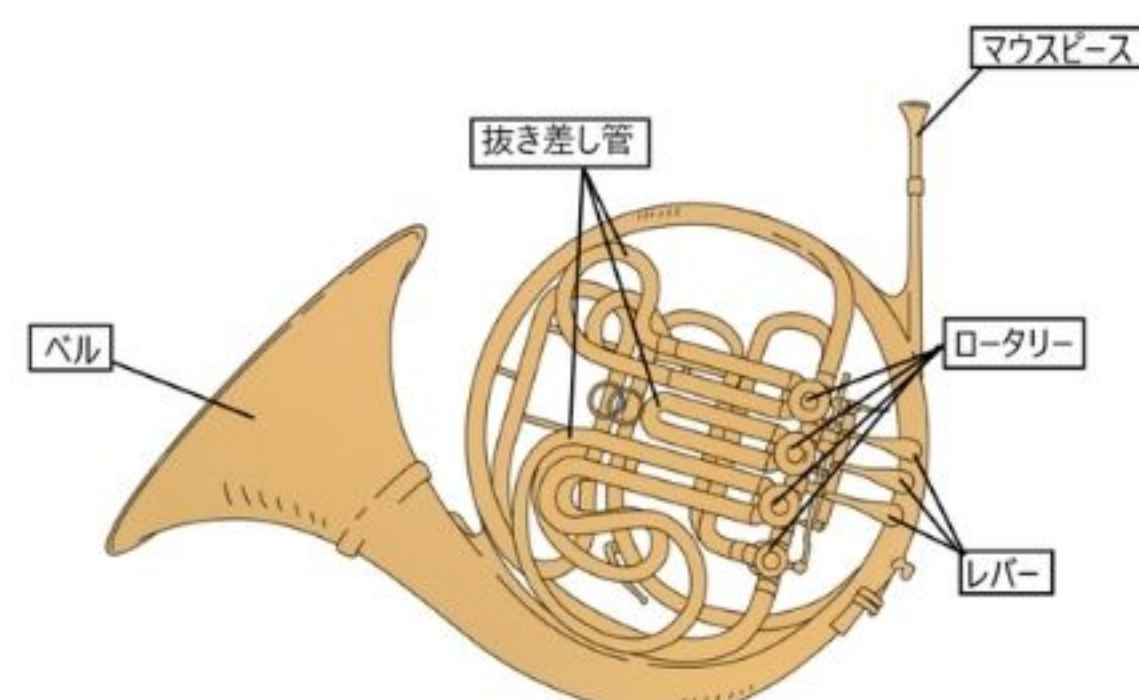
「ホルンはいいぞ〜。いろんな楽器と一緒に演奏ができる。

金管楽器だけじゃなくて、木管楽器や弦楽器とも。それに唇の形もいい！」

と、やけにホルン推しでその言葉にのせられ、めでたくホルンを担当することになりました。

先生はホルンの人数を増やしたかっただけなのかもしれませんが、ホルンにはオーケストラをはじめ、吹奏楽、ソロ、室内楽など魅力的な作品が様々あります。学生時代や大人になって素晴らしい作品を演奏させてもらえる機会に恵まれると、先生のその言葉を思い出すことがありましたし、ホルンに出会わせてもらえたことに今も感謝しています。

そんなホルンですが、金管楽器の中でもマウスピース（吹き口）は小さく、管は長く、演奏が難しい楽器としてギネスブックにも登録されているそうです。確かに、音は外れやすいし、音量のコントロールなど本当に難しいのですが、出雲芸術アカデミーのホルンセクションには、大人も子どもも、楽器のことが好きでチャレンジ精神旺盛なメンバーが揃っています。



ホルンの魅力

ジュニアの講座もコレgium合奏も出席率の高さには自信と誇りを持っています！やはりホルンは集ってなんぼのものかもしれません。簡単に吹きこなすことができないものだからこそ、日々挑戦する気持ちとみんなで楽しむ気持ちで各講座や演奏会に向かうことができていると思います。



ジュニアメンバーの中には楽器を始めて間もない受講生もあり、難しさの壁にぶつかることも多々あるのではないかと思います。自分のペースで、これからも長く付き合っていきたいと思っています。

ジュニアオーケストラのホルン講師として、オーケストラメンバーの一人として、アカデミーでホルンに出会われたみなさんや、アカデミーで出会うことができたみなさんと一緒に、演奏の楽しさやホルンの魅力を見つけていきたいと思っています。

さて、私自身のことやホルンセクションのみなさんのことについて書かせていただきましたが、ぜひ一度、合奏や演奏会でホルンの音に耳を傾けてみてくださいね♪

最後までお読みいただきありがとうございました。





フォト ギャラリー

一般講座風景



新入生歓迎会 & 交流会

サン・アビリティーズいずも
2026年6月7日(日)

